# 福岡市内河川の底生動物を用いた水質評価

環境科学課　益尾　実希

第 45 回九州衛生環境技術協議会生物分科会

河川の水質について総合的・長期的な実態を把握するため，福岡市保健環境研究所では市内に流入する 5 河川（多々良川，室見川，樋井川，那珂川，御笠川）の底生動物調査を 1 年に 1 河川ペースで実施し，ASPT 値(Average score per taxon) を用いた水質評価を行っており, 1992 年から 2018 年までの 5 河川の ASPT 調査結果と河川水質の関係を比較検討した． ASPT 値については，全体としては，2003 年以降に上昇傾向が見られた．また公共用水域の水質については，いずれの河川も 1992 年度から 2005 年度にかけて BOD の減少傾向が見られ，水質が改善されていることが分かった．河川の水質が悪化する要因の一つに生活排水の流入が考えられるが，福岡市全体の人口は，調査を始めた 1992 年から 2018 年にかけて 25%程度増加しており，福岡市全体の下水道人口普及率においては 1992 年が 93.2%であったのに対し，2018 年には 99.6%と増加している．人口が増加しているにも関わらず河川水質が良好な状態を維持もしくは良好な状態へ回復している要因の一つとして下水道普及率の上昇により河川への生活排水の流入が抑えられたことが考えられた.